T7R 2P

●ワークエモーション ティーセブンアール 2P

WORKEMOTION

SPECIFICATION

- ●サイズ：18 × 7.0J ～ 20 × 12.5J
- ●PCD：5H-100、5H-114.3 ※特殊 P.C.D.5H-98 ～ 120.55 [illegible]
- ●カラー：グリミットシルバー／アッシュドチタン／マットカーボン／ホワイト
- ●価格：5万 5000 円＋税～ 8万 7000 円＋税
- ●オプション：リムアレンジ、セミオーダーカラー、カラリズム

スポーツホイールとしてのポテンシャルを受け継ぎつつ、オーダーインセットを可能とすることであらゆるクルマにマッチングが可能！ 2ピースならではの深リム、ディープ感をアピールするコンケイブディスクなど、わがままな理想を具現化できるＴ 7R 2P は、カスタムの可能性を広げてくれる。

問：ワーク　http://www.work-wheels.co.jp
東日本コールセンター 048-688-7555
中日本コールセンター 052-777-4512
西日本コールセンター 06-6746-2859

サイズも色もオーダー可能 これぞまさにカスタムメイド

ワークが放つスポーツ[illegible]ブランド「ワークエモー[illegible]シリーズの中で、最新モ[illegible]るのがT7R2Pだ。[illegible]ピースモデルのT7R[illegible]おり、これを2ピース[illegible]ディファイしている。[illegible]デルであるT7R2P[illegible]やはりしっかりと存[illegible]イドなリムといえ[illegible]は海外ユーザーか[illegible]たもので、ワーク[illegible]R2Pを海外デビ[illegible]ら取り入れられた[illegible]ム幅ありきのデ[illegible]ワイド感のある[illegible]もとをアピール[illegible]

2ピースモデ[illegible]Pには、もうひ[illegible]ある。それは、[illegible]ト&オーダー[illegible]という点だ。[illegible]グに合わせて[illegible]ディスク面は[illegible]可能。大型[illegible]かわせるセ[illegible]ディープコ[illegible]理想のフォ[illegible]ラーオーダ[illegible]魅力で、[illegible]とめれば[illegible]とも可能[illegible]

もちろん[illegible]

ノーマル JCW を見劣りさせる さり気なくスパルタンな存在

TECH-M F56 JCW

- ●ホイール：ワークエモーション T7R2P（F18 × 8.0J+40　R18 × 8.5J+35）
- ◎オプション：ブラックアルマイトリム
- ●タイヤ：ミシュラン PSS（F215/40　R225/40
- ●車高調：ビルシュタイン B14
- ●インテーク：アムゼックス カーボンインテークキット
- ●その他：プラズマダイレクト、ショートシフトキット

問 :TECH-M
住所：大阪府堺市美原区多治井 371
tel.072-361-1088
http://www.tech-m-power.com

走行性能をスポイルしない 目一杯ワイドなマッチング

さり気なくスポーティなテイストをレベルアップさせたテックMのJCW。外観から確認できる変更点は車高とタイヤ&ホイールくらいで、手の込んだカスタムを感じさせない。実はソレが狙いでもあり、オーナーの希望はJCWの素性を損なわないことなのだ。

オリジナルの雰囲気を大切にする人は、ノーマルのままで乗っている人も多い。しかし、JCWのように走行性能にこだわったモデルともなれば、走りとルックスをカスタマイズしたくなる。そこで足まわりのモディファイとなるのだが、ホイールチョイスでこだわったのがJCWのブレーキキャリパーをかわしつつ、スペーサーなしで目一杯のワイド感を演出すること。ワークエモーションT7R2Pなら細かくインセットのオーダーが可能で、理想とするツライチ状態のマッチングが実現できる。特に注目なのがリヤタイヤのチョイスで、通常は不可能な225サイズをインストール！ ストロークを計算してフェンダー内側にわずかな加工を施すだけで、JCWらしいマッチョなスタイルを実現しているのだ。緻密なデータに基づいた、プロショップならではのマッチングといえるだろう。

テック M のカスタムコンセプトは、あくまで「走行性能」を高めること。信頼できるビルシュタイン B14 車高調キットをベースに積み重ねた独自のノウハウでセッティングを出し、アーム類の変更なしでワイドタイヤを履きこなしている。装着するパーツは代表の水元氏が吟味したものばかりで、トータルバランスを追求。「付ければいい」という足し算ではなく、相乗効果を狙った掛け算的パーツチョイスが光っているのだ。